



廃棄物焼却発電施設事業に係る概要書

令和 5年 8月 1日



株式会社 TEC武隈





設 立	2021年1月15日
代 表 者	代表取締役 阿部 光男
本 社	宮城県岩沼市早股字前川1番21号（二の倉工業団地内）
資 本 金	1,500万円（施設稼働時増資予定）
売 上 高	12.6億円（年間予定）
従 業 員	22～25名程度（予定）
事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none">● 産業廃棄物、特別産業廃棄物、一般廃棄物の処理・処分● 産業廃棄物、特別産業廃棄物、一般廃棄物の収集運搬● 廃棄物の処理に伴い発生する余熱を利用した電力の供給及び販売に関する事業● 廃棄物の処理に伴い発生する余熱を利用した農産物の生産・加工・販売● 廃棄物のエネルギー転換、資源化、減量化のための調査・研究・技術開発● 前各号に付帯または関連する一切の事業



事業の目的

廃棄物リサイクルの推進

本計画は、循環型社会の形成に貢献することを目的として産業廃棄物を中心とする廃棄物焼却処理施設を設置し、**リサイクルの推進と適正処理**を図るとともに、**地域に根ざした事業運営**を行うものである。

災害に強いコンパクトシティの実現

近年、自然災害の増大及び激甚化が頻発する中で、災害廃棄物の処理体制、更には地域循環共生圏形成による**地域活性化** [災害に強い地域でコンパクトシティ、地域の特性に応じて補完し支え合う（共助の構築）、地域資源を活かし自立・分散型の社会を形成（地産地消・再生エネルギー導入等）] に貢献でき、その一役を担いたい。

社会貢献

タケエイグループ内で積み上げた経験・技術によって、循環型社会、脱炭素社会への貢献及び災害廃棄物の速やかな処理をグループ内で実現し、より社会に貢献する事業展開を目的として実施するものである。



事業の概要

- 事業名称
(仮称)株式会社TEC武隈 廃棄物発電施設
- 事業主体
株式会社TEC武隈 (テックたけくま)
※出資者 (出資割合) 株式会社タケエイ (TREホールディングスグループ) (51%)
株式会社イーストコア (34%)
株式会社イマイ自動車 (15%)
- 事業計画地
宮城県岩沼市押分字須加原129-6、129-14 (二の倉工業団地内・工業用地)
- 事業種類の区分
産業廃棄物中間処理施設 (一般廃棄物含む焼却施設)
- 事業の規模
稼働予定時間 : 24時間/日 処理能力 : 120 t /日





計画施設の概要

処理方法	産業廃棄物中間処理施設（一般廃棄物含む焼却施設）
焼却方式	ストーカ炉（発電設備能力 1,950kw）
処理能力	5 t /時間（約120 t /日）
稼働時間	24時間/日
年間処理量	36,000t/年
取り扱う産業・一般廃棄物の種類	<ul style="list-style-type: none">◆ 産業廃棄物（燃えがら、汚泥、廃油、廃アルカリ、廃酸、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鋳さい、がれき類、動物系固形不要物、自動車破碎物を含む）◆ 特別管理産業廃棄物（感染性廃棄物）◆ 一般廃棄物（可燃物）

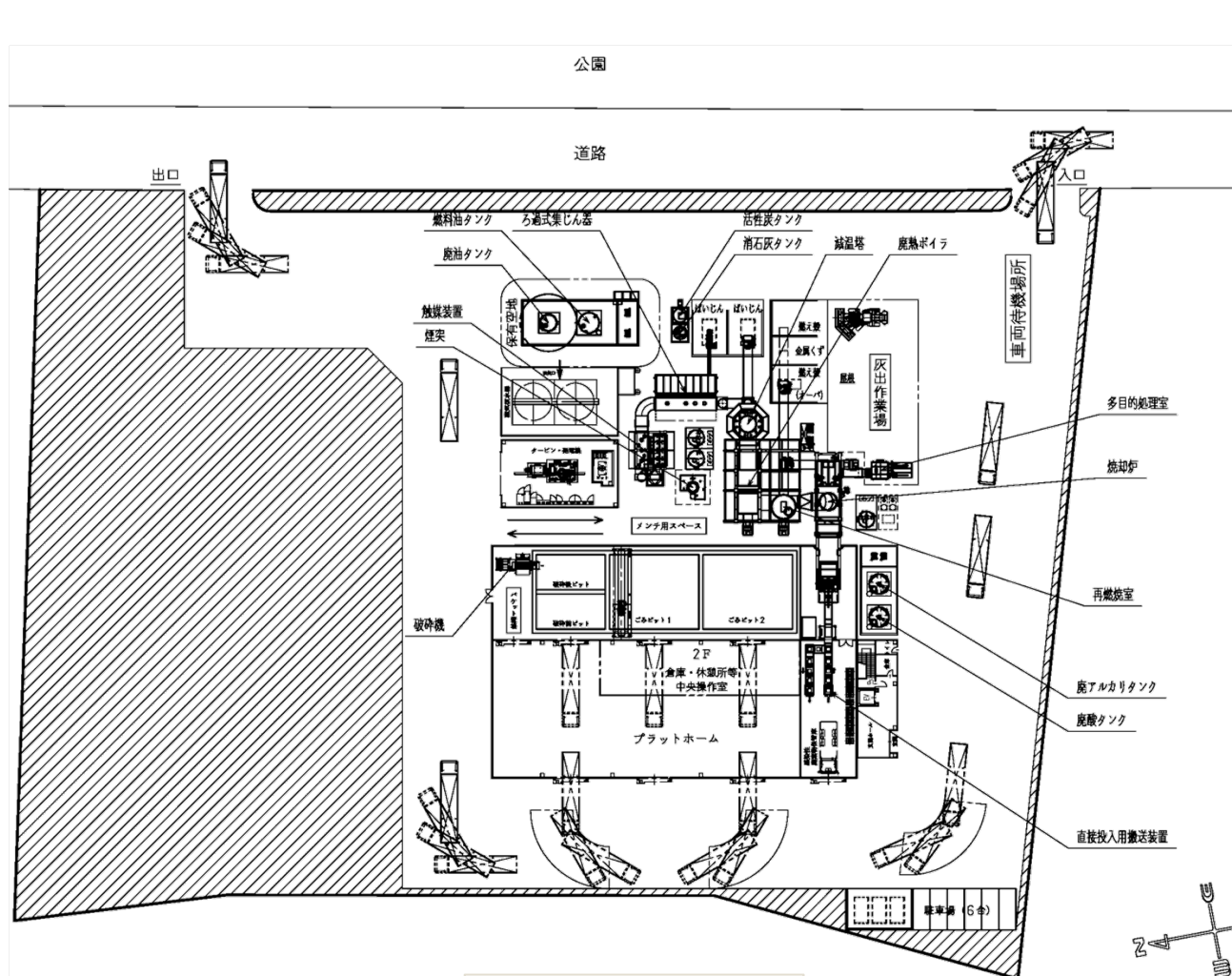
計画施設の予定地

住所：岩沼市押分字須加原129-6、129-14（二の倉工業団地内）

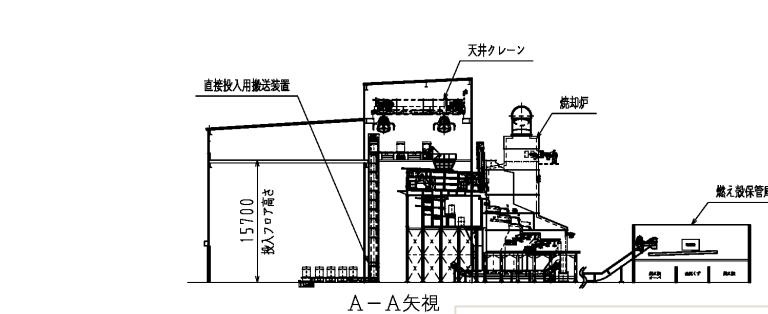
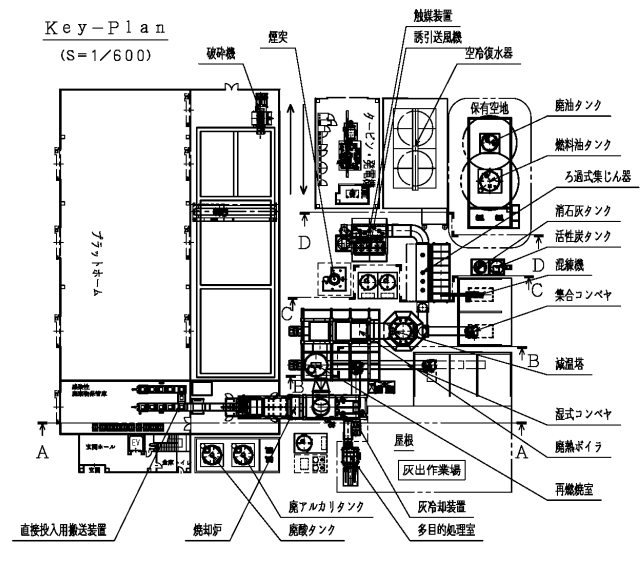


計画施設の配置案

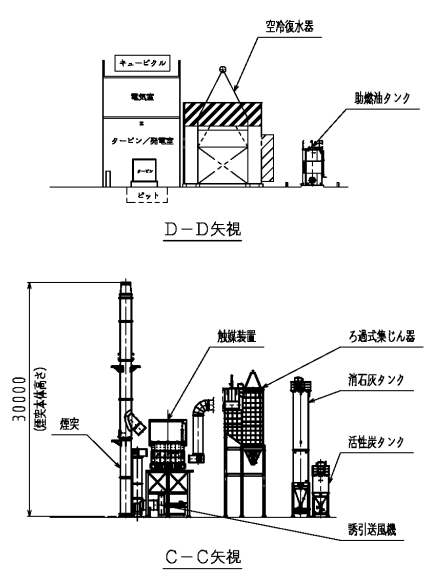
土地面積 15,633m² (約4,737坪)



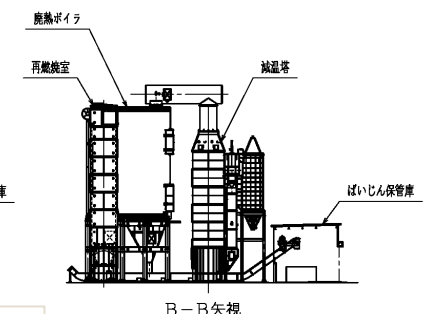
全体平面図



A-A矢視



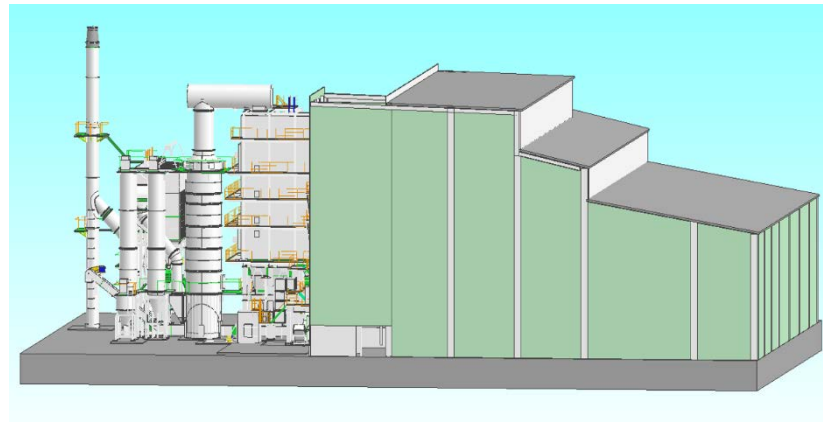
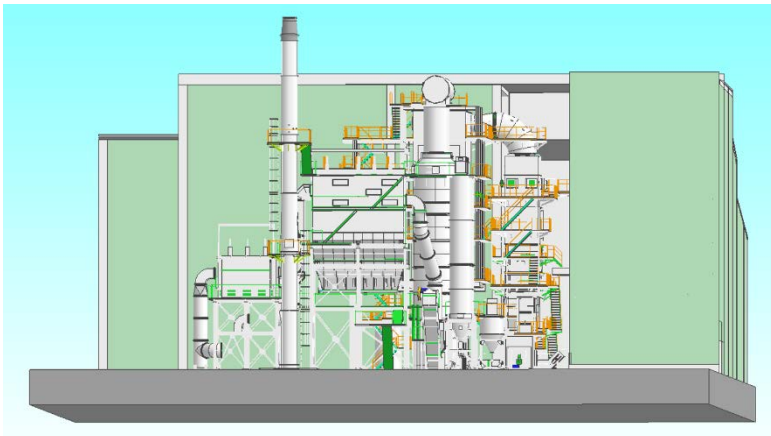
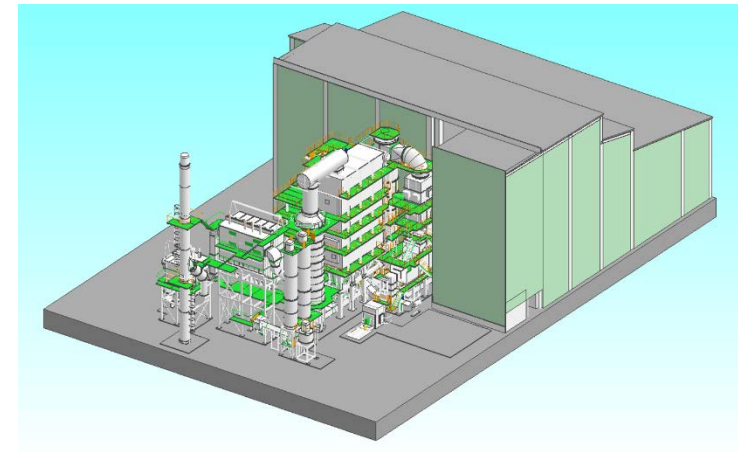
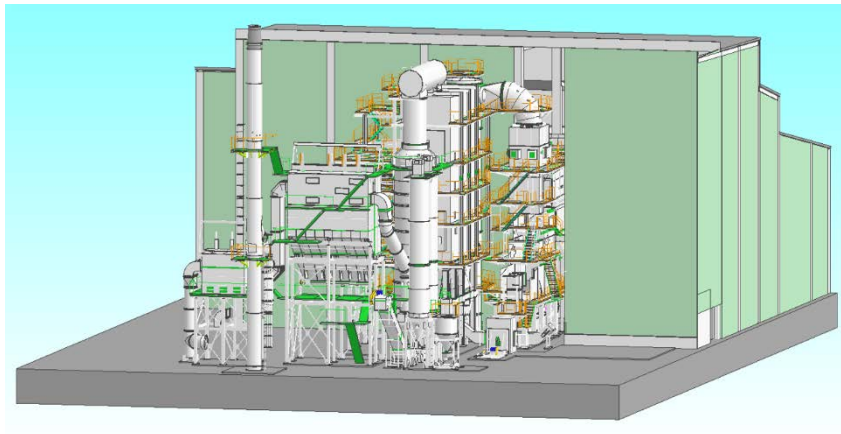
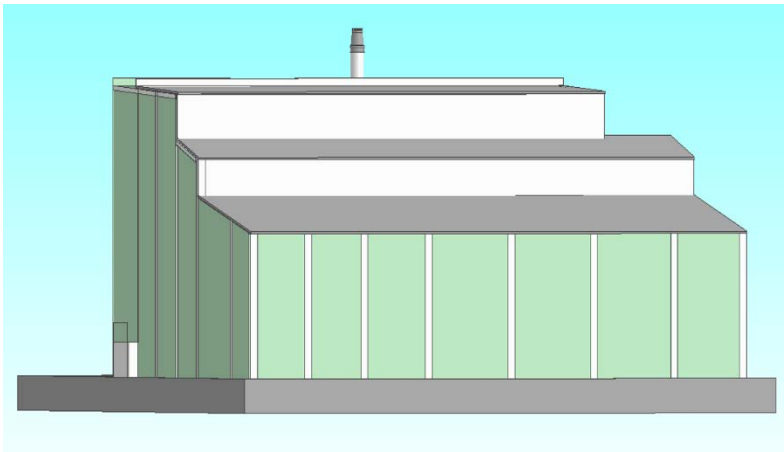
C-C矢視



B-B矢視

立面図

計画施設のイメージイラスト (同型の既存施設イメージ図で最終決定では有りません。)

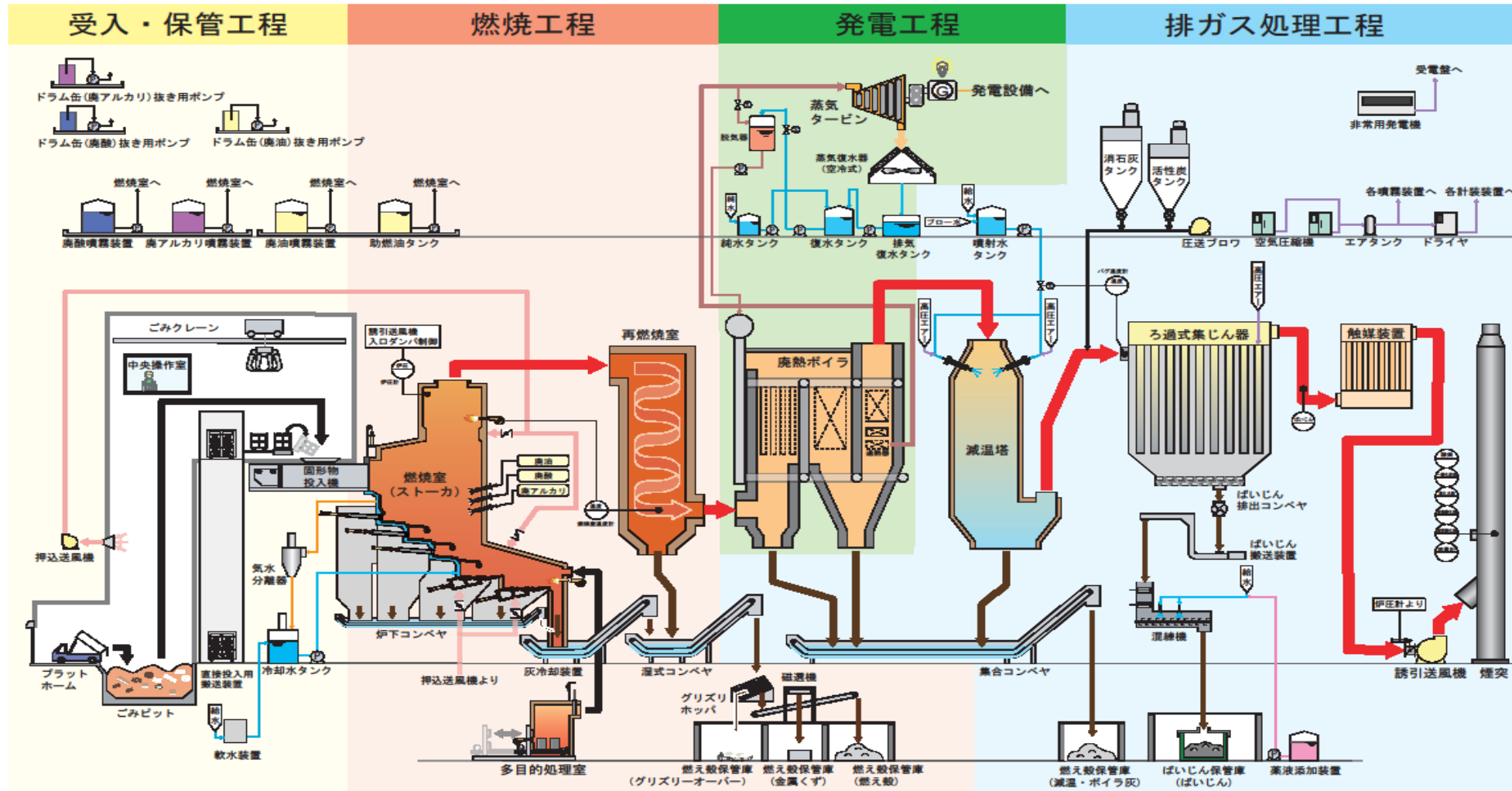


※プラント本体・建屋のイメージ図となります。(付帯設備が追加されます。)

計画施設の処理フロー



焼却施設 フローシート



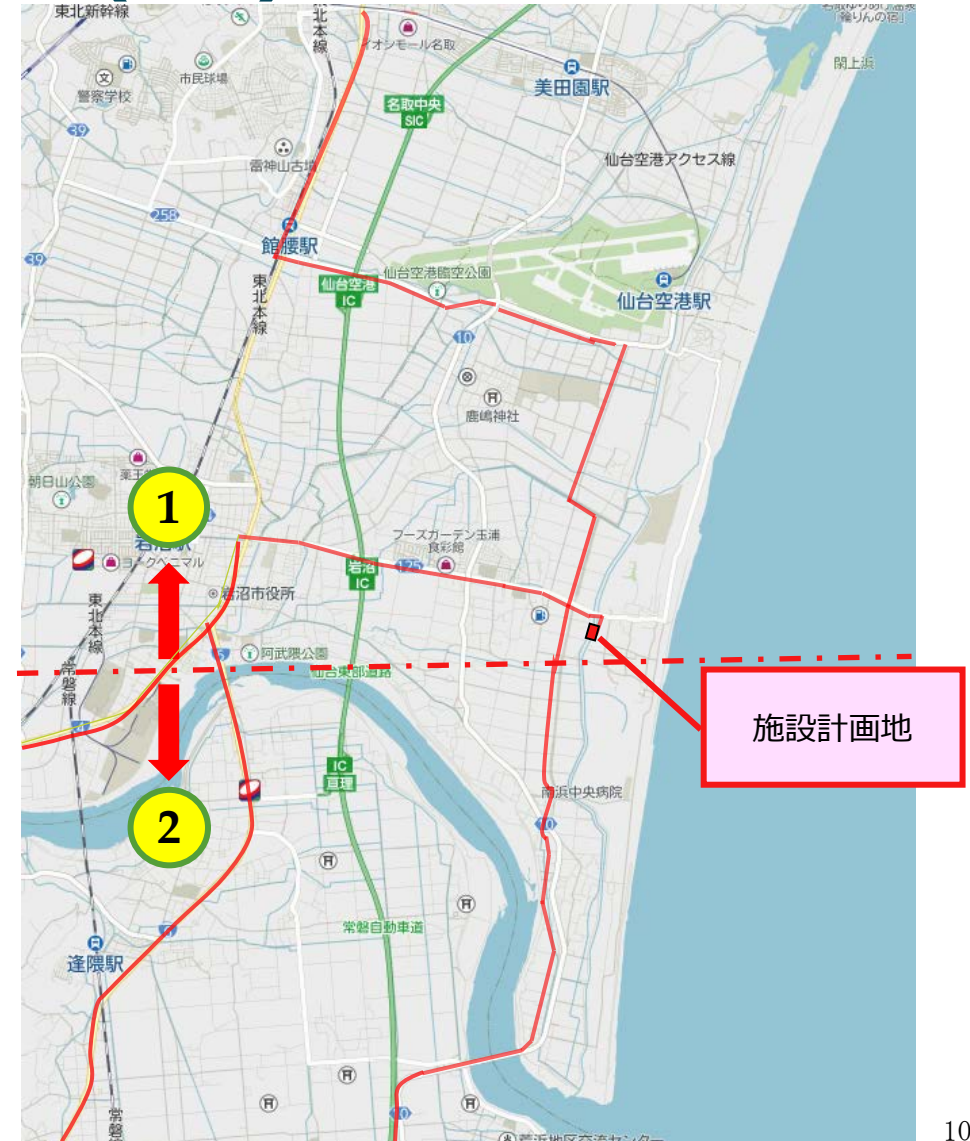
廃棄物・工事車両の搬入出経路図(案)

右の図は施設予定地までの
経路図（案）となります

次ページにて

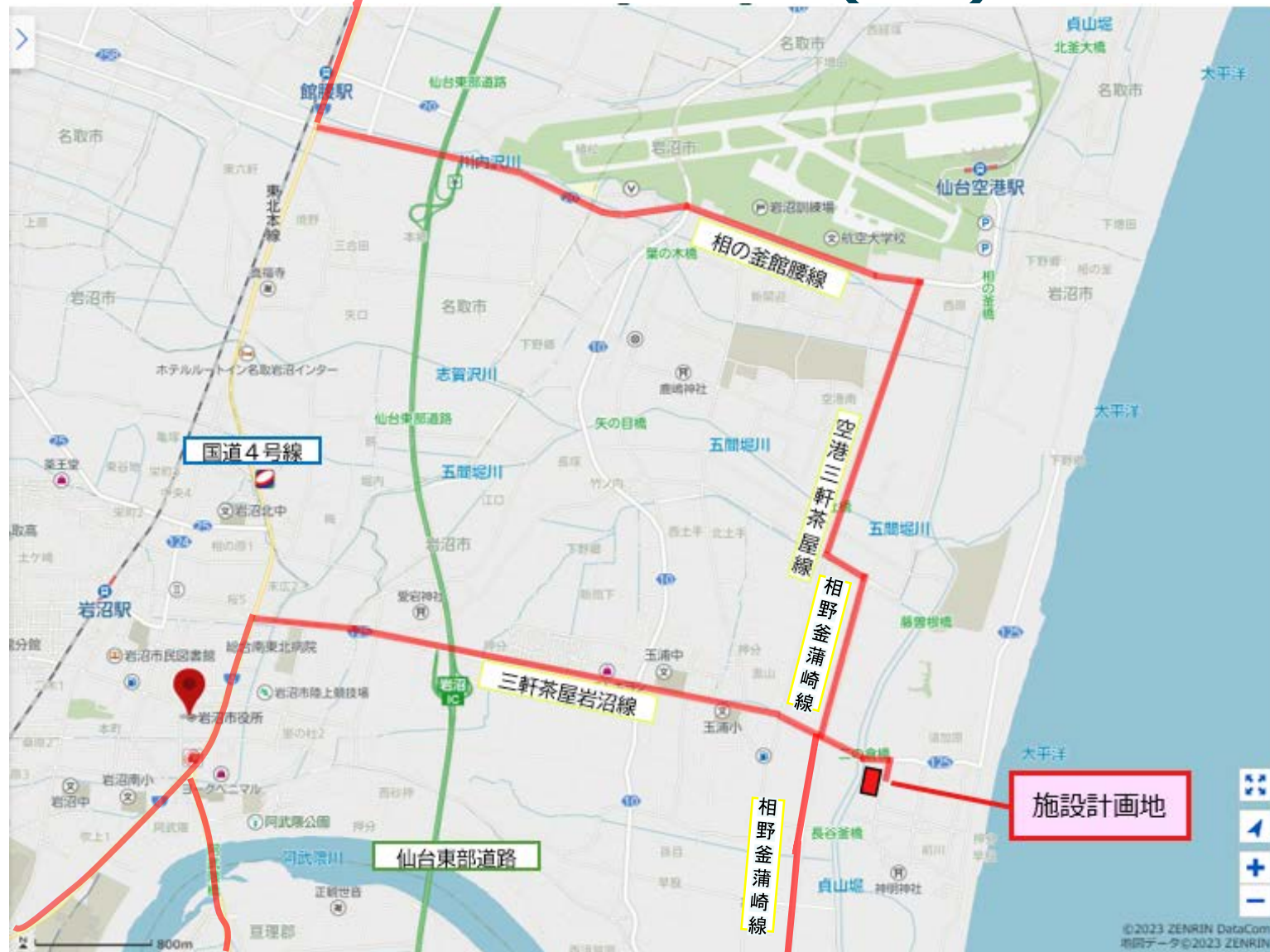
市内北側の①案 と 南側の②案 を
ご確認ください

※常磐自動車道・仙台東部自動車道を含む。



廃棄物・工事車両の搬入出経路図(案)

1 案



※常磐自動車道・仙台東部自動車道を含む。

廃棄物・工事車両の搬入出経路図(案)

2 案



※常磐自動車道・仙台東部自動車道を含む。



生活環境影響調査項目と影響要因

調査項目	影響要因
大気質	車両排出ガス、工事排出ガス、排気筒排出ガス
水質	工事排水
騒音	車両走行騒音、工事騒音、施設稼働騒音（発電設備含む）
振動	車両走行振動、工事振動、施設稼働振動（発電設備含む）
悪臭	施設からの漏れ臭等
土壌	搬入出土壌（建設時）、排気筒排出ガス（ダイオキシン等）、地下水質・水位（井戸使用時の地盤沈下等）
景観	施設の存在
人と自然との触れ合い活動の場	車両の走行、施設の存在
廃棄物	工事の実施、施設の存在
残土	工事の実施



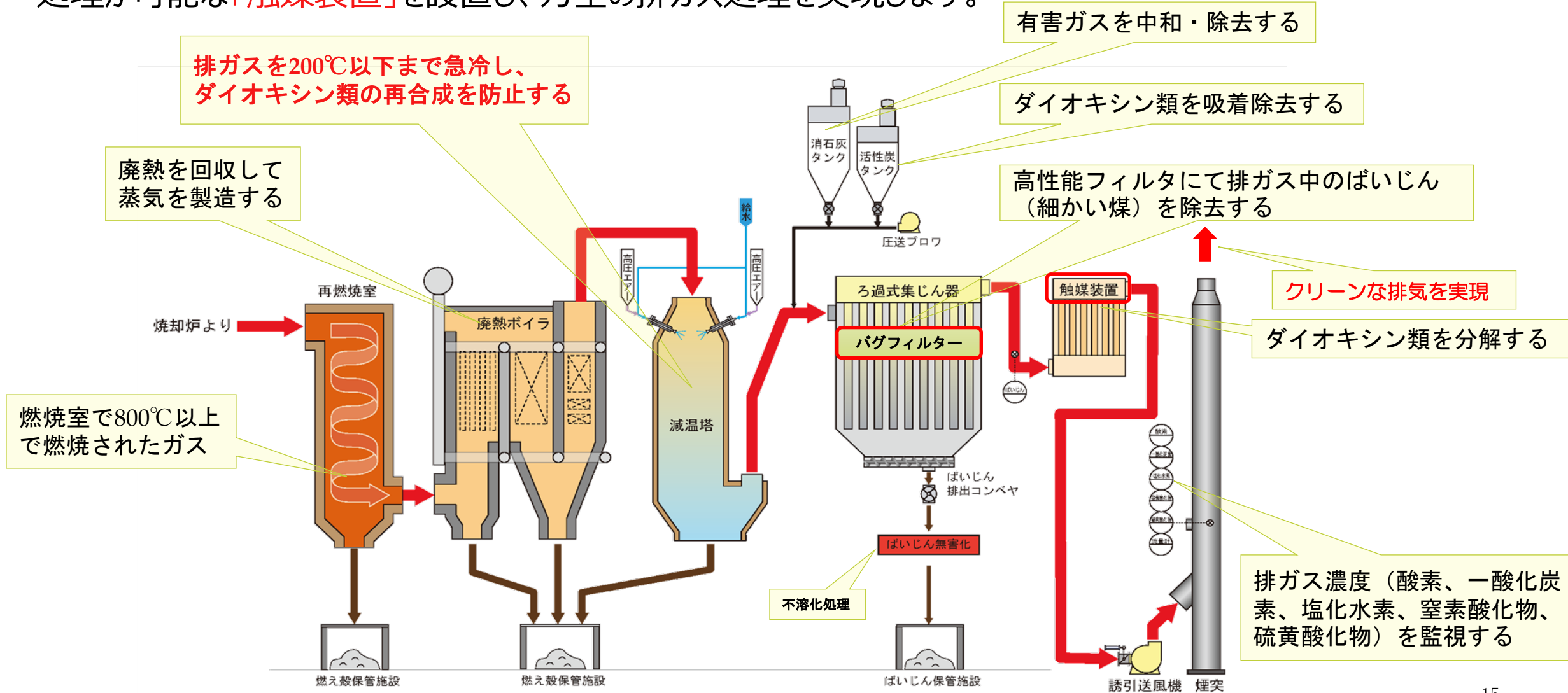
環境対策

大 気 質	<ul style="list-style-type: none">消石灰や活性炭などの薬剤による排ガスの浄化、ならびにバグフィルター及び触媒装置などの高性能なガス浄化設備を導入し、クリーンな排気を実現します。(ダイオキシン対策等次ページ参照)最新鋭の設備により、維持管理基準値を遵守します。ダイオキシン類の排出基準は、最高水準の0.1ng-TEQ/Nm³が適用されます。(0.1ngは100億分の1gになります。)
水 質	<ul style="list-style-type: none">焼却プラントからの排水は、すべて焼却施設におけるガス冷却塔のプラント用水として利用するため放流は行いません。場内に降った雨水は、一部ガス冷却などのプラント用水として利用し、その他は油水分離槽を経由して放流します。
騒 音	<ul style="list-style-type: none">騒音発生機器は、できるだけ建屋内に設置します。屋外設置のする機器は、必要に応じてサイレンサ、防音壁設置などの防音対策を行います。
振 動	<ul style="list-style-type: none">振動が周囲に伝わらないよう必要に応じ防振ゴムなど防振対策を実施します。振動発生源は低振動型の機器を採用します。
悪 臭	<ul style="list-style-type: none">800°C以上の高温燃焼により排ガス中の臭気成分を分解します。臭気のある廃棄物の運搬は密閉車両を用い、保管は、屋内のピット・ヤードなどで保管することにより臭気の漏洩を防止します。廃棄物を保管する屋内ピットやヤードは、負圧となるよう制御を行い、建物から臭気が漏洩しない仕組みになっています。建屋入口及びピットの開閉部には高速シャッターを用い、開閉時間を短縮することで悪臭の漏えいを防止します。
交 通	<ul style="list-style-type: none">運搬車両には、安全運転、周囲にやさしい運転を行うよう指導徹底します。搬入時間は、午前8時から午後6時までの搬入計画とし、通学路や通学時間等に配慮した運行計画とします。

大気質への対策

(高性能排ガス処理施設)

一般的な排ガス処理に用いられる全国の焼却炉で実績のある「**バグフィルター**」に加えて、ダイオキシン分解処理が可能な「**触媒装置**」を設置し、万全の排ガス処理を実現します。





生活環境影響調査 計画（目的）

【調査の目的】

事業活動が周辺の生活環境にあたる影響を予測評価し、地域の生活環境が保全されることを確認する。

【調査内容】

1. 現況の把握：現状の周辺の環境状態（大気質・騒音・振動・悪臭）を調査
2. 予測評価：施設の稼働や廃棄物運搬車両による環境影響を予測
3. 影響防止策：調査結果に応じ生活環境影響防止策を検証
4. 総合評価：基準値に十分に適合し、生活環境が保全されることを確認する

【調査方法】

環境省が定める生活環境影響調査指針等に基づき、周辺の生活環境に影響を与える可能性のある項目（次ページ）について調査します。





生活環境影響調査 計画（調査項目）

項目	環境影響要因				
	調査項目	煙突排ガスの排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行
大気質	二酸化硫黄	○	—	—	—
	二酸化窒素	○	—	—	○
	浮遊粒子状物質	○	—	—	○
	ダイオキシン類	○	—	—	—
	塩化水素	○	—	—	—
	総水銀	○	—	—	—
騒音	騒音レベル	—	○	—	○
振動	振動レベル	—	○	—	○
悪臭	特定悪臭物質と臭気指数	○	—	○	—
その他	景観	—	○	—	—
	人と自然との触れ合い活動の場	—	○	—	—



以上でご説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

